

紙版 ハコブネ×ブックス vol.27

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐwebサイトです。



そのらのことばが降ってくる 保健室の俳句会

作者 高柳克弘
出版社 ポプラ社
発行 2021年9月
ISBN 978-4591171066

review



中学二年生の男子、ソラが俳句に興味を持ったのは、ハセオに俳句の魅力熱心に教えられたからです。中学一年生のクラスで**いじめられて傷ついたソラは、ずっと保健室登校**を続けていました。ハセオは教室を抜け出しては校内を漂流している変わった子です。俳句好きのハセオに保健室で句会をしようと誘われて、最初は拒否していたソラも、ハセオの解説によって俳句の世界に次第に面白さを感じはじめます。俳句は**誰かに向けた挨拶**であり、俳句を作ること**言葉**を輝かせることができる。人の言葉に傷つけられてきたソラも、言葉が違う輝きを放つことに気づきます。弓道部のエースのユミを加えて、句会は盛り上がり、やがて中学校をあげての**俳句大会**へと発展していきます。子どもたちが切磋琢磨して表現を洗練させていくプロセスが見どころです。



春や春

作者 森谷明子
出版社 光文社
発行 2015年5月
ISBN 978-4334910259

review



高校二年生の女子、茜（あかね）が俳句に興味を持ったのは、小さな頃から句会と一緒に連れて行ってくれた父親の影響です。高校の国語の授業の次の単元が俳句であることを楽しみにしていたところが、国語教師は**俳句は文学ではない**と断言して、その単元を飛ばしてしまいました。同級生たちの前で**俳句の素晴らしい**をプレゼンするものの聞き入れられなかった茜は、その悔しさから、俳句同好会を結成し、俳句で競い合う全国大会、**俳句甲子園**を目指すことにします。それぞれ特技を持った個性的なメンバーがここに集まりました。最初は練習試合にも勝てなかった茜たちでしたが、研鑽を重ね、俳句甲子園の地区予選を勝ち抜き、**全国大会**へと駒を進めます。父と一緒に行った句会で出会った少年と、全国大会で再会する期待を胸に、茜は仲間たちとの絆を深め、優勝を目指して突き進みます。

特集

俳句で勝負

五・七・五のわずか十七文字で想いを伝える俳句という表現方法は、孤高の芸術ではなく、誰もが楽しめる**身近さ**と**奥深さ**を持っています。近年、俳句の世界に足を踏み入れた子どもたちの物語が数多く描かれています。自分が俳句を詠むだけではなく、人の想いを俳句から読み取り、意見を戦わせて、より洗練された表現へと高めていく**切磋琢磨**がありまます。集まって俳句を詠み、互いに評価しあう**句会**の楽しさ。自分の俳句が人の心を動かした時の胸の高鳴り。自分の内側に閉じこもりがちだった子どもたちは、俳句を作ることで人と繋がっていきます。磨き上げられた言葉が織りなす俳句の世界。その魅力が**子どもたちの目を通して語られる**ことで、俳句への造詣も深まります。俳句は**勝ち負け**ではありません。それでもちよつと**ほめられたい**のです。そんな心の余白が愛おしくもある、子どもたちの俳句を是非鑑賞ください。

俳句ガール



作者 堀直子
出版社 小峰書店
発行 2018年12月
ISBN 978-4338319027

review



小学四年生の女子、つむぎが俳句に興味を持ったのは、祖母に菓を届けるためにデイスービス施設を訪れた時です。祖母が詠んだ俳句が一等賞として貼り出され、その嬉しそうな様子が、自分も**ほめられたい**という気持ちになり、つむぎにもわいてきました。友だちには差をつけられ、家でも優秀な姉のように期待されず、お手伝いばかりさせられている自分。そんな気持ちを解放するように、つむぎは心にひらめいた俳句を人知れず**放課後の教室の黒板**に書き残します。翌朝、その黒板に**返句**をつけてくれたのがクラスのアウトローの少年、一生（いっせい）であることを知り、つむぎは驚きます。俳句が上達するだけではなく、詠んだ人の気持ちを読み解いてくれるようになる。つむぎ。物語はやがて、**俳句大会**を通じてクラスがひとつになっていく大団円を迎えます。

わたしの空と五・七・五



作者 森塾こみち
出版社 講談社
発行 2018年2月
ISBN 978-4062832502

review



中学一年生になったばかりの女子、空良（そらら）が俳句に興味を持ったのは、文芸部の活動に参加したことがきっかけでした。新しいクラスで、どのグループと親しくしたらいいのか迷い、なるべく目立たないように思っているうちに、誰とも友だちになれていない自分に気づいた空良。そんな時、目にいた『ペンを持ったら本音をぶちまけられる』という文芸部の勧誘チラシの文句に、**屈した気持ちを**抱えていた空良は入部を決意します。文学愛に溢れる個性的な先輩たちの薫陶を受けて、空良も次第に感化されていきます。自分の心の中の**うじうじ**したものを見つめて、それを**表現に昇華**させていく。俳句を学び、文芸部の**句会**に参加して、自分の心の裡を表現していくことの歓びに空良が目覚めていくプロセスが、ハイセンスなユーモア溢れる文体で綴られています。

特集
俳句で勝負



小学三年生の七実（ななみ）が俳句を通じて世界を広げていく『俳句ステップ!』**大学二年生の杏（あん）**が句会で人との親交を深める『いるか句会へようこそ!』など、**それぞれの年齢層**に俳句の物語があります。



いるか句会へようこそ!
(堀本裕樹)
駿河台出版社 2014年



俳句ステップ!
(おおぎやなぎちか)
佼成出版社 2020年

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.27

2022年6月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作、語々を受賞。



Twitter
連携しています。

@tomoostretch